

目白大学短期大学部新入生の皆さん、今ほど、とどこおりなく入学許可を宣言いたしました。教員一同、皆様を歓迎いたします。ご入学、まことにめでたうございます。また、ご列席の保護者の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。

目白学園は100年の、そして、短期大学部としては60年の伝統のある学び舎です。

三徳の一つである、「主」は主人公の主、「師」は師弟の師、「親（しん）」は親（おや）という字を書いて、「主師親」を建学の精神とし、「育てて送り出す」を教育理念、社会的使命として、皆さんを育てています。

そのために、これからの時代を生きるために必要な「3つの力」を身につけて、羽ばたいていけるように、きめ細かい教育を行います。

1つ目は「学び続ける力」。学びの場は学校だけではありません。社会に出てからも、さまざまな経験を通し学び成長していく、そのための基本的な姿勢を身につけてください。「新しいことを知りたい」という欲求が、学び続ける力を生み出します。まずは「好奇心の種」を蒔いてください。

2つ目は「実践する力」。物事は学んだだけでは身につけません。使うこともできません。自転車や、逆上がりや、スキーなども、何度も転んだり失敗を繰り返しながら、徐々に身につけてきたはずです。それが、いつの間にか失敗をすることは、恥ずかしいことのように感じるようになってしまいました。学生の間はいくら失敗をしてもかまいません。壁にぶつかり、トライ・アンド・エラーを繰り返しながら、そこから何かを学び取り、ひとつひとつ問題を解決していくその中で、徐々に、いろいろな物事が修得できるようになります。

3つ目は「社会に役立てる力」。積み重ねた経験と実践力は、社会に出てはじめてその実力を発揮できます。それを、社会に還元し、次の世代に受け継ぐ、そんな力を修得して巣立ってください。

「3つの力」を身につけた皆さんには、輝かしい明日が待っています。未来を見つめ、共に学んでいきましょう。

さて、短期大学部の主人公は、皆さんです。そして、学生として過ごす時間は、自らの個性を伸ばし、アイデンティティを見つけるための、大切な時間です。アイデンティティとは「私はこんな人です」と自信を持って言えること。周りを見回してください。隣に座っているお友達は、皆、それぞれ違ったアイデンティティを持っています。その違いをお互いに認め合い、お互いの個性を尊重することで良好な人間関係が築かれていきます。

お互いを理解するためには、感性を育てる必要があります。そのためには、たくさんお友だちを作ってください。たくさん、本を読んでください。泣いて、笑って、時には怒ったり、意見をぶつけ合うことが、成長のための大切な学びとなります。

コミュニケーションの極意は、周りにはいる人は、皆、自分を写す鏡だということです。人の振り見て我が振り直せと言いますが、自分のことはよく見えませんが、他の人のことはよく見えるからです。個性の違うお友達と様々な経験を共有し、切磋琢磨するなかで自分の素直な本来の姿に気が付いていくとことが、学びのための大切なプロセスとなります。

学生生活を過ごすにあたり、大切なことをお伝えします。

大学での生活は、子どもから大人になるための境界線にある大事な期間です。これまでは、保護者の方に守られ、先生方に教えられて過ごしてきました。社会に出ると、誰も何

も言ってくれません。自分で考え、自分で学び取り、自分で問題を解決し、そして、自分の足で歩いて行かなければなりません。今は、そのための準備期間です。

大学では、これまでと違い、待っていても何も起こりません。高校までは30点や40点でも合格でした。しかし、大学の合格点は60点です。丸暗記も一夜漬けも通用しません。履修登録も自分で選択をしなければなりません。とりあえず単位を取ればいいやと手を抜いていても、もちろん卒業は出来ます。自ら学ぼうという意欲で、新しい事に積極的にチャレンジをすれば、たくさんの経験をする事が出来ます。どちらを選んでも、平等に同じ時間が経っていきます。その選択権は皆さんに委ねられています。

まずは、なぜ、この短期大学に入学をしてきたのか、入学試験の面接の時に「あなたの志望動機は？」と訊かれた時のことを、もう一度振り返ってみてください。

次に、きちんと授業に出席をすること。高校までの授業と違って、休んでしまうと、授業の繋がりがわからなくなります。すると、モチベーションも下がってきてしまうからです。

こんな風に考えてみてください。お料理を作ります。何を作ろうか考えます。材料を用意し、材料を切り、下ごしらえをし、調理をし、味付けをし、最後に、盛り付けて完成です。もし、途中のステップをひとつでも抜かしてしまったら、お料理はできあがりません。学ぶこともまた同じです。皆さんのカリキュラムは、教養や基礎から、専門、応用科目へと順番に学んでいくことで、きちんと、理解をして、卒業できるようにプログラムされているからです。

大学での、学びはこれまでと違います。同じ「がくしゅう」ですが、高校までは、習うという字を書いて「学習」でした。これからは、修めるという字を書いて「学修」と書きます。習う方の学習は、知らないことを教えてもらう。修めるの方の学修は、修得するという意味ですので、理解をして使いこなせるようになることです。

そして、この学びにはいくつかのステップがあります。

門構えに耳と書いて「聞く」。これは、小鳥のさえずりやBGMと同じで、ただ耳に入っている状態です。次に、耳偏に徳川家康の徳の右側を書いて、耳を傾ける「聴く」というレベルになって、コンサートや授業を聴く、など、目的意識を持って聴くことになります。ここがようやくはじめの一步です。

第二のステップは「理解する」こと。そして、第三のステップで「やってみる」「できた」。もちろん、一回でできることもあります。はじめは、うまくいきません。失敗を重ね、そこから学び、繰り返しチャレンジをすることで、徐々に上達をしてきます。

もう少し、先があります。修得したことを、他の人にきちんと「伝える」事が出来るでしょうか？ただ、伝えればではありません。伝えたいことが伝わって、相手も「わかった」というレベルになって、ようやく「学修」の最終ゴールになります。

私たち教員は、そんな皆さんを、きちんと「育てて送り出して」いきます。

目白大学短期大学部は、教員と学生の距離が近いと言われています。壇上にいらっしゃる、学科長の先生方、そして、この会場の後ろに座っている先生方。先生方は、人生の先輩であり、たくさんの学生の成長をサポートして、たくさんの先輩方を「育てて送り出して」きた、豊富な経験を持っています。何かわからないことがあったり、悩みなどがあったときには、気兼ねなく研究室の扉をノックしてください。きっと、みなさんに優しく寄り添って、惜しみなく相談に乗ってくれるに違いありません。

最後に一つ。一番、大切なことをお伝えします。「今、この瞬間に、ここにおいて、今を生きてください」。短期大学の2年、3年は、あっという間に過ぎ去っていきます。昨日のことを懐かしがっていても、何も起こりません。明日のことを悩んでいても、何も生み

出せません。今、この瞬間、瞬間の、一つ一つの経験の積み重ねが、皆さんの未来につながっていくからです。

ぜひ、目白大学短期大学部で、有意義な、学生生活を、過ごしてください。
以上、歓迎の言葉とさせていただきます。

2023年4月3日
目白大学短期大学部
学長 山田 隆文